

## 竹類に見られる畸形

石沢 進

### ●タケノコの双頭

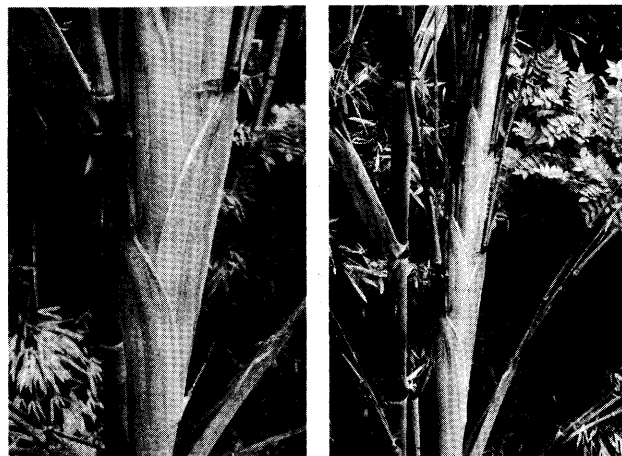
シダ植物の種によっては、茎の先端が叉状に分岐することが常態であるものもあるが、種子植物では、かなり少ないという。また、茎の生長点が畸形的に割れて双頭になることが、マダケ、クロチク、ハチクなどで稈の根際またはかなり上方で二つに分かれたものがあることが知られている（藤田哲夫 1949）。

新潟日報で報告された「二またタケノコ」（2008年5月11日記事参照）は、外見的には、稈の形成初期に生長点が叉状に分岐したために起こるか、稈の基部近くの稈鞘の腋芽が生長したとも考えられる。正確には、外観から詳しい形態が見られないので、稈鞘を取り除き、どの節で、写真のような形態で分岐しているか確かめる必要がある。外観からは一方が小型であることが気かりであるが、生長

点が叉状に分岐した例と推定される。上記のようにタケ類で双頭になる事例が報告されているので、「極めて珍しい事象」であるとは言えないが、高頻度で出現する事象でないことから、珍しい事例に当たるであろう。

### ●ハチクの帯化

植物の帯化現象については、多くの植物で見られる事例であり、特に珍しいことでないが、ハチクが帯化している



ハチクの帯花

新 潟 日 報

2008年(平成20年)5月11日(日曜日)



のに出会ったのは、私としては初めてなので写真を掲載した。このような事例を見られた方には情報寄せて頂ければ幸いである。写真のハチクの帯化は、佐渡市両津天王下(牛尾神社近く) 20m[ (両津) 5738-03-55] で観察したものである('08 6/22)。

○：佐渡市潟端の竹林で、地面近くから二またに分かれたタケノコが見つかった！写真Ⅱ。「嫁いで四十年近くたつけど初めて見た」。竹林のそばに住む会社員、甲斐菜子さん五人は目をぼちく

## 二またタケノコ

佐渡で珍種発見

り。○：土からひょっこり顔を出しているのを家族が見つけた。植物に詳しい新潟大の石沢進・元教授によると「原因は分からないが、珍しいケース」という。

○：二本は一枚の外皮にすっぽりと包まれてすくすくと成長。九日には高い方が約五十センチになった。「竹が高く伸びていくように、わが家もいいことがあるといいけど」と甲斐さん。「どうなっていくのか、切らないで見てみようかな」とうれしそうにはほんだ。

藤田哲夫 (1949) 植物畸形学 12-13p 共立出版株式会社